[ドウシ・テ]

道志手帖

Winter 2018　no.22

道志の民話　④ 十二支と猫（じゅうにしとねこ）

十二支と猫

猫がよぉ、いたらほれぇ、牛がなぁ。やってきただと。

「今日は、どこへねぇ」

つたらよぉ、

「猫さん、知らないかい。動物の寄り合いでよを、出掛けた」

ちゅうだわな。したところがぁ、ほれぇ、それは、その先はねずみだがなぁ。

ねずみも、もはや、行くつもりでいたところなぁ、牛が通りかかったからよぉ、

「牛さん、俺を乗してくれ」

ちゅうでぇ、ぴょんと、飛び上かってなあ、ほれぇ、背中にのっていっただわぁ。

動物の寄り合いの場所へなぁ。

ほうしたところがなぁ、ねずみは、頭のほうへのぼってきててぇよぉ、ぴょんと、飛びおりてぇたった。

そうだからぁ、ねずみが一番先でぇなぁ。

したところがぁ、猫がよぉ、

「俺にぃ、あかさなかった」

ちゅうでぇ、ねずみをそれぇから、ねずみを取るようになっただと。

作画　仲井義晶／出典　民話の手帖 49 号（1991）「道志の民話」より

道志手帖

Winter 2018 no.22

Contents

表紙写真

(2018.12.5)

道志川から大室橋を見上げる。左手に降りてきた階段、前方奥にキャンプ場が見える（大室指～笹久根線 道志渓谷遊歩道にて）。

［特集］

地図にない道——ふたつの遊歩道を訪ねて

①笹久根～大室指線 道志渓谷遊歩道　…4

②矢頭山遊歩道　…7

［連載］

道志の民話④十二支と猫　仲井義晶　…2

どうしの山 山みちマップ⑩　菜畑山～赤鞍ヶ岳～ワラビタタキ　石川敬子　…10

協力隊だより㉑　…12

お仕事拝見⑪公文式道志教室 佐藤由起さん　仲井義晶　…16

みなもと体験館イベント参加⑩彫るⅠ　佐藤八重子　…16

What's "Doshi-techo"?

「道志手帖」とは？

略して「ドウシテ」。「どうしってどんなところ？」という関心から生まれた、道志村地域おこし協力隊を中心とした有志による冊子です。村で生活していて気になったこと、おもしろいなとおもったこと、発見や驚きを、年４回報告していきます。2016 年度からは新しい書き手による誌面をお届けします。書き手は常時募集しています。どなたでもお気軽にお問い合わせください。

特集

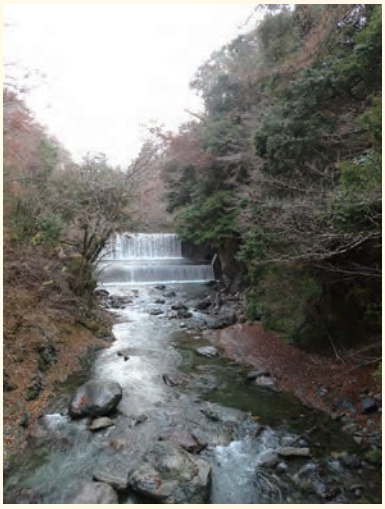
地図にない道
―ふたつの遊歩道を訪ねて

かつて遊歩道として整備された、笹久根―大室指の道志渓谷遊歩道。コツコツとつくり続けられ、完成が見えてきた長又の矢頭山（やのうさん）遊歩道。地図から消えてしまった道、これから記されていく道。地図にないふたつの遊歩道を訪ねました。

川原に鹿の足跡

アユ

ヤマセミ


❶ 吊り橋から見る堰堤

❶ 吊り橋

＊所要時間：約１時間　＊全長 723m（看板記載）

近くて遠い道志川
消えかけている川への道

［笹久根大室指　道志渓谷遊歩道］

道志村西部に端を発し村の中心を流れる道志川は、村の東部、神奈川との県境付近では深い渓谷をかたちづくる。渓谷には吊り橋が架けられ、国道沿いに入り口がある野原・久保の二つの吊り橋が観光名所になっている。

渓谷に架かるもう一つの吊り橋の存在はあまり知られていない。久保の隣り、笹久根にあり、かつて笹久根と大室指の川沿いを結ぶ遊歩道としてつくられたという。今では整備されなくなり、歩く人はほとんどいない。

＊＊＊

12月4日（火）晴れ。遊歩道を歩いてみた。笹久根の国道沿いが入り口で、急な石段の

道志渓谷遊歩道（笹久根～大室指線）

❺ 足場をつくり渡る

❹ 大室橋を見上げる

❸ 遊歩道入り口に看板

❷ 魚道

坂を深い谷底へと降りていく。道沿いはかつて畑で、大木になったゆずや柿が実を付けている。鹿除けの柵の扉を抜け、落ち葉を踏みしめて進むと、すぐに吊り橋（地図上の①）に出た。

橋の上に出ると視界が開け、上流には堰堤のつくる滝が、下流には正面に崖が見え、渓谷の深さや川が曲がりくねっていることがわかる。野原と久保の吊り橋に比べ低いところに架かり川までの距離が近い分、橋から川の水の色や岸のようすがよく見えた。

驚いたのは、手つかずの自然が残っているところでしか見られない渓谷の鳥、ヤマセミが暮らす痕跡が見られたこと（案内してくださったHさんに教えられてびっくり）。めったに見られない鳥だと聞いていたから、まさか道志で見られるとは知らなかった。

橋を渡り、川沿いを堰堤の手前までくると「魚道」（②）があった。魚道とは、魚が溯上できるように、堰堤の脇につくられた魚のための道。石で区切った階段状の道にちょろちょろと水が流れている。ここで以前は「やな漁」（※）をしたという。今ではアユが少なくなりやめてしまったらしい。魚道をじっさいに目にするのは初めてで、やな漁がどん

※やな漁とは、竹などでつくった「梁（やな）」という仕掛けを川に設置して魚を獲る漁のこと。

なものかもよく知らなかったけれど、目の前の川にアユが溢れかえるさまを想像すればなんともわくわくした。

堰堤の手前の左手に、山を登り畑へ出る分岐がある。薮に塞がれて、言われなければ気がつかない。かつて吊り橋が出来る前は川に丸木橋を架け、毎日畑に通ったという（今では林道がのび、車で通えるようになった）。

堰堤の上まで来ると道がなくなり、川を渡れず先へ進めなくなった。諦めて引き返し、今度は反対側の入り口、大室指から入ってみることにする。国道沿いの誰も気がつかないだろう入り口（③）から、落ち葉に埋もれた急な階段を降りていくと川原に降り立つ。

振り返ると国道が通る大室橋の赤い橋桁が頭の上にあった（④・表紙写真）。ふだん車で通り過ぎている橋の下に降り立つだけで、頭上の喧騒が遠ざかり、見慣れない川からの景色には不思議な開放感があった。川へ降りることのない日々のなかでは知ることもない景色だ。

川原をしばらく歩くと堰堤の上にたどり着いた。石で足場をつくって川を渡りきり（⑤）、再び吊り橋を渡って川をあとにした。

＊＊＊

吊り橋から下流を見る。川までの距離が近い。

そばにあるのに、ふだんなかなか足を運ぶことの無い、道志川。遊歩道を歩いてみて、川を知っているようでじつは全然知らなかったことに気づかされた。

国道から見える川の風景はほんの一部で、もっとたくさんの表情があること。野鳥が住むことのできる渓谷が残されていること。かつては暮らしのなかにもっと身近に山と川があったこと。

道志に住みながら道志川のことを知らないでいるとしたら、なんてつまらないことだろう。人が歩かなくなり整備されなくなれば、川沿いの道が廃れていくのは仕方無いかもしれない。けれど道がなくなれば、川はいっそう遠くなってしまう。遊歩道が消えていこうとしていることに寂しさを覚えた。

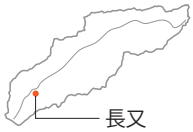
特集

※現在遊歩道は整備されていません。危険ですので無理な通行はしないようにしてください。

2015 年 3 月、ミツバツツジの植樹作業を終えて、遊歩道登り口にて。

自分たちの手で道づくり
頼朝伝説を結ぶ道

［長又　矢頭山遊歩道］



消えていく道がある一方、長年にわたってコツコツ整備され、新しく形づくられてきた道がある。長又地区の矢頭山（やのうさん）と、周辺の頼朝伝説が残る名所を結ぶ、矢頭山遊歩道だ。

この道を整備しているのは、地元長又地区の有志メンバーによって結成された「矢頭山保存会」。なんと今年で活動開始から11年目を迎えた。

もともと長又には頼朝ゆかりの名所が点在している。その一つ、「頼朝の豪弓」伝説（9頁参照）の舞台となる矢頭山には、山頂に風神雷神が祀られた祠があり、昔から毎年春にはお祭り（※）が行われ、長又の人にとって関わりの深い山だった。しかし、その山頂へ行くためのしっかりした道がない。お祭りのときには毎回草刈りをしながら、急な坂を滑りそうになりながら登っていたという。

祠への道を整備したい、さらには頼朝ゆかりの名所をつなぐ遊歩道が出来たらいい。そんな思いのもとに地元住民が集まり、平成20

　※矢頭山のお祭りについては『道志手帖』8 号（2015 年春号）をご覧ください。

2018 年秋の道づくり。何もないところに新たに道を入れていく。

春先、ミツバツツジが山を彩る。山頂から正面に矢先の山を望む。

年、村の補助金制度に手を挙げ、活動がスタートした。

以来10年間、毎年春と秋に、年二回の活動を欠かさず続けてきた。最初は尾根までの階段（地図上の⑤）づくりから始まった。急な坂を重い木材を担いで運び上げ、一段ずつ距離をのばしていく。上へ行くに従って難しく、林内作業車を使って木材をひっぱりあげながらの作業になった。4年ほどかけて三百数十段の階段が完成。その後は、階段沿いにモミジやミツバツツジの植樹をしたり、ベンチを設置したり、少しずつ手を加えていった。

今年度は、頼朝伝説が残る岩「兜岩」（①）と矢頭山山頂を結ぶ道を新たに整備した。沢沿いのかつて馬搬で使われた道（ソリ道）に沿って道を広げ、沢に丸木橋を架け、道沿いの木を伐り、なんとか山頂までの道が開通した。これで、遊歩道の全体像が見えてきた。

「まだ完成ではない。どうにか完成形が見えてきたところ」と保存会代表の池谷勝さん。案内板を設置したり、展望デッキをつくったり。親しまれる遊歩道にするために、形にしたいアイデアがたくさんある。よりよい道を目指して、これからも会の活動は続いていく。

＊＊＊

12月16日（日）、保存会のみなさんに遊歩道を案内していただいた。出来たばかりの沢沿いの道にはまだ先日の雪が残り、霜柱をザクザク踏みしめて登っていった。

尾根に出ると出迎えてくれるのは、見事な枝振りのアカマツ「鎧松（よろい）」（③命名保存会）。尾根沿いには鹿の寝床や、木にキツツキの掘り跡など、森の生きものたちの痕跡がある。

祠の上の山頂には、直線的に割れた柱状節理の岩がゴロゴロ。山頂からは、頼朝がここから放った矢が当たったという一里（約4キロ）先の「矢先（※）」の山がたしかに見えた。

春になれば山頂にミツバツツジの花が咲く。今は裸の道沿いの雑木林も、春には新緑がきっと美しいだろう。

山頂からは長い階段をずっと降りていく。苦労してこしらえた話を聞いた後では、一段一段に思い入れがずっしり詰まっているようだった。降りていくと次第に集落の家々が見えてくる。一時間ほどの散策で、冷えていた体がすっかりほぐれて暖まっていた。

＊＊＊

新しくできた矢頭山の遊歩道。これからもきっと地元の人たちの手で育てられ、親しまれていくに違いない。

※今は矢崎という地名が残る。道の駅どうし付近。

矢頭山遊歩道

❹ 祠

❺ 階段とベンチ

❻ 遊歩道入り口

❼ 試し石

❶ 兜岩

❷ 丸木橋

❸ 鎧松

＊所要時間（❶→❻ 1 時間 10 分ほど）

❶兜岩→ ❸鎧松　沢沿いの登り道（40 分）

❸鎧松→ ❹山頂　尾根道（15 分）

❹山頂→ ❻遊歩道入り口　下りの階段（15 分）

語り継がれる頼朝伝説

「**頼朝の豪弓**」…頼朝が矢頭山山頂で放った矢が一里先の松を射抜いたという。

「**兜岩**」……頼朝が兜を置いて休んだという。「兜石」とも呼ぶ。

「**試し石**」……頼朝が沢で刀を研ぎ、試しに切りつけたという。「試し切り石」とも呼ぶ。

ワラビタタキ（赤鞍ヶ岳）
（登山道から見えない）ウバガ岩
▲1256.8m
広い尾根
米
北側へ回りこむ 足元注意
厳道峠
狭い
展望良い
赤鞍ヶ岳
山頂は森に囲まれ ほとんど展望ありません…
岩
転落注意
急
ブドウ石
竹之本
国道413号←→ワラビタタキ
道志手帖NO.21を参照下さい
急
急
林道（工事中）
ワラビタタキ
（赤鞍ヶ岳）
すく道もわかりにくくなっていますので
、西に富士山、北側は秩父の山々が
本坂峠から道志村へおりられますから
日が落ちると急激に気温がさがります。
鉄塔
東の展望良い
取水施設
道標
大栗B.S
月夜野・県境
道志川
忠霊碑
若宮神社
413
道志村役場
道志川
北
南
時間のめやす
大栗B.S 1:50→ ←1:30 ワラビタタキ 1:10→ ←1:10 朝日山
1:30→ ←1:50 ブドウ岩頭 1:10→ ←1:10 菜畑山
0:25→ ←0:40 林道終点 1:00→ ←1:20 国道・和出村
山みちマップ
どうしの山
作・画 K-co 2018.11

菜畑山～赤鞍ヶ岳～
（朝日山）
国道から稜線までは急坂が続きます。特に秋からは落ち葉で滑りや
注意が必要です。稜線は葉が落ちて明かるく南は丹沢の山々
見えます。小さい登り下りが多く意外に時間がかかります。秋山峠
無理をせず下山しましょう。冬は日暮れが早く
ヘッドランプは必ず持参して下さい。
※タクシーは藤野から約40分前後かかります。
赤鞍ヶ岳
1299m
（朝日山）
カラマツが多い
岩戸ノ峰（高丸）
1288m
カラマツ
秋山峠
カヤト
笹原
山頂は広いが展望はありません！
国道
ぶどう岩ノ頭
1224m
本坂峠（道志口峠）
国道・和出村
急
転落注意！
巣箱多い
菜畑山
△1283.3m
展望素晴らしいよ！
西に富士山見えます。
今倉山へ
取水施設
林道終点
和出神社
度除ネット
国道413号←→菜畑山は
道志手帖No.16を参照下さい
和出公民館入口
道志の湯
トイレ
山伏山
山中湖

協力隊だより 21

このページでは、地域おこし協力隊の活動を報告していきます。

七瀧佳至

クレソンの栽培を始めて半年が過ぎ、最初の冬を迎えます。クレソンはほかの農作物と比べて栽培に手間がかからず、一年を通じて収穫でき、かつ高い価格帯で販売でき、食材としての栄養価も高く、とても魅力のある作物だと感じています。これからさらに圃場を増やしたり、収穫量を増やすための工夫をしながら、自分なりのクレソン栽培を模索していきたいと思います。

12/7　クレソン収穫

横浜ビールや藤野のマルシェなどで販売しています。圃場には道志川本流から水をひいているので水量があります。水の流れに近い場所ほど生育が良いので、全体に水の流れが行き渡るように整備し、収量増を図っていきます。

12月8日にはNHK「きょうの料理」に取材していただきました。来春放送予定です。クレソンが「肉料理の添え物」としてだけではなく、もっとなじみのあるものとして、ふだんからたくさん食べてもらえるような野菜になってほしいと思います。

▲12月上旬でもまだ青々としています。苗は、圃場を貸してくださっている佐藤美智子さんが何十年もつくり続けてきたもの。道志の土地や気候に適応してきているかもしれません。

◀水のなかで作業するための長靴は足の付け根まである特注品です。

文・写真　香西恵

鳥澤 拡太

冬場は焼き芋の販売とキクイモの収穫・出荷をおもに行っています。今年は畑をイノシシにやられてしまい、サツマイモの収穫量は減ってしまいましたが、ねっとりした食感と甘さが自慢の安納芋と、改良した焼き芋釜で、この冬もおいしい焼き芋をお届けします。国道沿いで販売しているので、ぜひお立ち寄りください！

12/3　キクイモ掘り・保存

@戸渡

今年はキクイモの作付けを昨年の３倍に増やしたので、１トン近く採れる見込みです。新たに開墾した畑では鶏糞を与えず肥料なしで栽培してみましたが、出来は良いです。雪が積もる前にすべて掘り出し、取り出しやすいところに埋め直す作業を急いで進めています。

12/3　焼き芋釜制作

@みなもと体験館

昨年作った焼き芋釜は煙が充満してしまうことが課題でした。今年は煙突をつけて改良しました。

12/10 am11:00 ～ pm16:30　焼き芋販売初日

@釜之前

釜之前の国道沿いで販売しています。この日は今シーズン一番の冷え込みで、絶好の焼き芋日和でした。一袋 250 円。多くのかたにお立ち寄り頂き、完売しました！芋は収穫後ひと月以上寝かせたので甘みが増しています。

抱井 昌史

ミツバチの越冬の準備を進めています。なるべく寒くないように巣箱の出入り口を狭くし、本格的に寒くなる前に暖かい地域へ巣箱を移動します。この秋はスズメバチの被害は少なくて済みましたが、予想以上にダニの被害がありました。これ以上群れを減らさずに無事越冬してもらい、来春良いスタートがきれるよう、見守っていきます。

ハイブツール［hive（巣箱）tool（道具）］
養蜂に必須の道具。ドイツ製の良いものを都留市で養蜂をされていた方から譲っていただきました。巣箱から巣枠を取り出したり掃除をしたり、あらゆる場面で重宝する優れものです。

上部を塞ぐようにかたまるミツバチたち
日陰になっていた場所の巣箱をあけると、ふだんは動き回っているはずのミツバチたちが、巣の上部に蓋をするようにかたまっていました。中の熱を逃さないためでしょうか。巣の中には幼虫がいます。

外へ運び出されたゴミ
巣箱の出入り口の前には細かいおがくずのようなものが溜まっています。働き蜂（清掃係）が巣箱内の不要なものを外へ運び出すためです。

初めてのお米づくり

今年は神地に田んぼをお借りし、初めてお米づくりに挑戦しました。10月に収穫し、およそ600キロのお米がとれました。たくさんとれたので紅椿の湯などで販売しています。品種はひとめぼれです。

11/25　巣箱の取り替え・殺ダニ剤取り出しなど

巣箱の取り替え

巣枠を一枚ずつ取り出しミツバチのようすをチェックしながら越冬仕様にした巣箱へ移し替えます。／蓄えた蜜に蓋をしてしまっていると食料として取り出せないので、蓋に傷をつけてやります（右）。

巣箱の用意

ハイブツールを使ってプロポリスなどこびりついた汚れを削り落とします。

殺菌のためにバーナーであぶります。

越冬用に新聞紙を詰めて出入り口を狭くします。

ダニ被害

（左）巣箱の前の板に散らばっている黒いものは、ダニにやられたミツバチの死骸です。被害があっというまに広がり、慌てて殺ダニ剤を投与しましたが群が減ってしまいました。
（右）６週間で殺ダニ剤を取り出します。

この冊子は平成30年度地域おこし協力隊活動事業費により作成しました。

道志手帖
【ドウシ・テ】
no.22

お仕事拝見 ⑪ 公文式 道志教室 佐藤 由起さん

作画 仲井義晶

素直で好奇心のある子供に

縁あって公文教室の指導者になって、丸14年がたちました。

子供たちには、周りの大人たちより広い世界で活躍してもらいたいと願います。

道志を出れば、否応なくデジタルとグローバルの波にのまれ、都会育ちの子たちと渡り合わなければなりません。そんな中でも、道志育ちを誇りに思って、自信に満ちて生きて欲しいのです。

素直な好奇心を育てられたらいいなと思います。

みなもと体験館イベント参加 ドキドキワクワク体験コーナー 10

憧れのスローフード体験、木工体験。道志村に移住してきた私にとって、みなもと体験館でのイベントは毎回未知の事でいっぱい！ 私のドキドキ、ワクワクをこのコーナーで紹介します。

彫る Part Ⅰ

今回は欅の無垢の板に「彫る」プロセスをお伝えしたい。みなもと体験館職員の方に相談した上、彫る字体を決めて、トレーシングペーパーにコピー。欅の無垢の板と共に予約させていただいた時間に向かった。（みなもと体験館では木工作は予約なしでもできますが、事前に連絡すれば必要な材料や道具の手配、準備のアドバイスなどをしてもらえます。）

「彫る」というと真っ先に思い起こすのは、彫刻刀……器用とは決して言えない私にとって、子供の頃のあの彫刻刀による傷が今もはっきり目に浮かぶ……。「大丈夫かな……？」

最初は板の上に、手造りの美しい「丸金」（職員の宇野氏個人所有）をお借りし、字体をなぞっていく。板に写った薄い線上を鉛筆でなぞる。次に用意いただいていたのは「のみ」。これでさらに字体の線を深く彫っていく。その際、大事なのは線の外側に「のみ」の斜めの刃をもっていく事。刃を反対にしてしまうと字体側を削ってしまうからだ。大切なポイントになる。さらに宇野氏から驚きの助言。「板を彫ると思わないでください。板は繊維の塊だと思って、繊維を一つ一つ切るというイメージで。もし切りづらかったら、こっちですか？ あっちですか？ と木に相談してください。」う～～～ん？ 木は繊維の塊？！そういう発想は持った事がなかった。繊維、繊維とイメージしながら彫っていく。すると、木の年輪が目に入るようになった。だんだん木の細かな部分の性質が彫刻刀を持つ指に伝わってくる。「は～い、ここは真っ直ぐでOK、そっちは少し斜めね。」そうすると力も加えず、彫った線に柔らかみが出てくる。あ～子供の頃は木と喧嘩していたから、怪我をしたんだとわかった。長年来、どこかに怖さのあった彫刻刀とも和解出来たのがとても嬉しい気持ちになった。

今年春から構想していた「ガーデンボード」。来年にかけて持ち越しになったけれど庭の名前を彫るのみならず、象眼も施したいと夢がうかぶ。みなもと体験館で来年の夢をいただいた。どうぞ皆様にとっても夢多き年でありますように。

（佐藤八重子）

発行日 2018年12月28日 発行 道志村地域おこし協力隊 編集責任者 香西恵
〒402-0209 山梨県南都留郡道志村6181-5 道志村中央公民館2F
TEL：0554-52-2118 ホームページ：http://www.doshi-te.jimdo.com

道志村地域おこし協力隊

協力隊へのご意見や本誌のご感想をお聞かせください。
お気軽に左記の宛先へご連絡ください。